

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【体育】

1 対象 1年生

マット遊びでは、友達の動きを見て、友達のよさを見つけて、学習を進めることができる。友達の技能や表現のよさ吸収し、自らを高めていけるように、技のポイントとなることを児童と考えながら授業を進めている。一方でマットを使った運動遊びを苦手とする児童がいる。場の工夫をしたり、よいところをほめたりし、楽しく跳び箱を使った運動遊びに取り組めるようにする。

また、場の準備や片付け、安全確認をすることが苦手な児童には、準備や片付けをきちんとできるように意義や仕方を説明する。

2 単元名「とびばこランド」

3 単元目標

- ・跳び箱を使った運動遊びの行い方について知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、馬跳びやタイヤ跳びをしたりして遊ぶことができるようにする。【知識及び技能】
- ・跳び箱を使った運動遊びでは、簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えたり、学習カードに書いたりできるようにする。【思考力,判断力,表現力等】
- ・マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。【学びに向かう力,人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びの行い方について知っている。 ・跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをして遊ぶことができる。 ・馬跳びやタイヤ跳びをしたりして遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った遊びで、走って跳び乗った後、手を叩いたり、回ったりして着地するなど、いろいろな着地の仕方を選んでいる。 ・友達の良い動きを擬態語や擬音語で友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り、誰とでも仲良く運動しようとしている。 ・場の安全に気を付けている。

5 授業展開【 本時 ・ 単元】

解決したい課題や問い

・友達の演技を見たり、友達と話し合ったりすることを通して、自分に合った跳び方を選んでいく。

考えるための材料

- ・絵カード
- ・友達の演技

想定される活動

- ・体操選手の動画や絵カードを見て自分の動きを作る。
- ・自分の考えた動きや友達の意見を参考にしてやってみる。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

T:〇〇さんが新しい下り技を見付けました。見てみましょう。どんな下り技だったかな。

- ・手を2回たたいて下りていたよ。
- ・跳び箱をまたいで下りていた。
- ・回って下りていたよ。

T:1年生で新しく見つけた下りる動きをやりましょう。

- ・〇〇さんのように手をたたいて下りてみたいな。
- ・回って下りるのは、楽しそう。
- ・跳び箱をまたいで下りるのはできそうだからやりましょう。
- ・大きくジャンプしたらカッコいいからやりてみたいな。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

- ・〇〇さんのように手をたたいて下りてみたらできて嬉しかった。
- ・回って下りるのは上手く回れなくて難しいけど、また次に挑戦したいな。
- ・大きくジャンプして、カッコよく下りることができたよ。